

江戸川大学総合福祉専門学校
学校関係者評価委員会議事録
(平成 27 年度)

平成28年5月
学校法人江戸川学園
江戸川大学総合福祉専門学校

1. 学校関係者評価委員会開催概要

開催日時	平成28年3月5日(土) 午後1時30分～午後3時15分	
開催場所	江戸川大学総合福祉専門学校 F102会議室	
参加者(敬称略)	江戸川大学総合福祉専門学校後援会会長 駒木自治会会長 社会福祉法人修央会 船橋笑寿会 相談員 学校法人江戸川学園江戸川大学特任教授	北岡光明 渡邊治 平尾悟 茅野廣行
欠席者(敬称略)	江戸川大学総合福祉専門学校同窓会会長 千葉県立流山南高等学校校長	皆川博行 高橋一博
学校側参加者(オブザーバー)	江戸川大学総合福祉専門学校 校長 " 学生部長 " 事務部長	桑田知明 城田和明 奥山武浩

2. 議事内容

委員会の成立及び議長選出	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の参加者及び欠席者を確認(委員6名のうち4名出席)し、定足数(委員の過半数)に達していることを確認。 ・委員の互選により茅野廣行氏を議長(委員長)として選出。
学校関係者評価委員会の趣旨及び議事進行について	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸川大学総合福祉専門学校校長(以下 校長)より本委員会開催に関し、「学校評価に関する関連法令」及び本委員会の開催主旨などについて説明がなされた。 ・議事内容・進行については、「学校自己評価報告書(平成27年度)」(各評価項目)に基づき「特に気になったところを中心」に審議し、評価を行うこととした。

学校自己評価報告書

1. 学校の教育目標

2. 本年度中に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

	<ul style="list-style-type: none"> ・議長(委員長)より「学校自己評価報告書」内容(目次・各評価項目等)の説明が求められ、校長よりまず「1. 学校の教育目標」、「2. 本年度中に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画」について説明がなされた。
--	--

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(1)教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・審議(評価)を行うとともに、本校を構成する各学科についてその特色等の説明が求められた。 ・学生部長の城田和明氏により、(配付資料)「EDOSEN江戸川大学総合福祉専門学校 2015」(本校パンフレット)に基づき各学科の特色等について説明がなされた。 ・議長(委員長)より、(1)の項目の「課題」についての説明が求められた。 ・校長より、(1)の項目の「課題」について説明がなされるとともに、特に高等教育機関化に向けた基準の高度化が見られ、本校の場合教員の資格要件が適合するか現段階では未確定であるとの認識が併せて示された。 ・議長(委員長)より、この項目についての質疑を各委員に求めた。 ・社会福祉法人修央会の平尾悟氏より、評価「3」(となっている項目)は、高等教育機関になれるか現時点では明確ではないことが起因であることが認識できたとの発言がなされた。
------------	---

<p>(2) 学校運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校長より、この各項目の内実は、学園としての運営も評価・達成状況に含まれていることが説明されるとともに、先日実施されて千葉県総務部学事課の「平成 27 年度学校法人検査指導」についても評価項目に絡めて報告がなされた。 ・議長(委員長)より、評価項目「地域社会等に対するコンプライアンス」等の内容・表現から、駒木自治会長渡邊治氏に意見を求められた。 ・駒木自治会長渡邊治氏より、登下校時とみられる学生の喫煙行動が見られ近隣住民に不満があるとの状況が報告された。 ・校長より、本校の喫煙問題(禁煙指導)について説明がなされるとともに、引き続きの対策が必要である認識が示された。 ・議長(委員長)より、同評価項目((2)学校運営)において評価「3」が見られるが達成していないという認識でよいのかとの発言がなされた。 ・学生部長の城田和明氏より、「情報システム化等による業務の効率化」は図られているものの最終目標は全情報を有機的に結び付けることで、現時点においては成績管理に係わるセキュリティーの確保が課題となっていることが報告された。 ・議長(委員長)より、「教育活動等に関する情報公開」に関わり、後援会会長の北岡光明氏に意見が求められた。 ・後援会会長の北岡光明氏より、様々な情報について公の会議等に直接参加する場合等はその場で得ることができるが、欠席や不参加の場合にはホームページや会報紙等によるしかないのだろうかとの発言がなされた。 ・校長より、今後も広く情報開示を心掛けてゆきたいとの認識が示された。
<p>(3) 教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議長(委員長)より、「(3)教育活動」について審議(評価)が行われた。 ・校長より、「職業実践専門課程」指定を目指した場合における企業との連携について補足がなされた。 ・議長(委員長)より、実習先就職先の施設代表としての平尾悟氏に意見が求められた。 ・平尾悟氏より、特に(実習施設との)連携に関連して各評価項目の評価が低めではないのかとの意見がなされた。 ・校長より、この意見にに対して各評価項目の内容が実践されるべき項目が、現状の教育課程などに具体的に反映されていない部分もありこの様な評価になったとの認識が示された。 ・ここで後援会会長北岡光明氏より、実習評価はだれが実施するのかとの質問がなされた。 ・これに対し校長より、実習先施設の実習指導者や巡回指導教員が実習結果を踏まえ総合的に評価し、各学科が成績を付けることになるとの返答がなされた。 ・各委員より、「職業教育に対する外部関係者からの評価をとりいれているか」との項目について評価「2」は厳しいのではないかとあらためて指摘がなされた。
<p>(4) 学修成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議長(委員長)より、「(4)学修成果」について審議(評価)が行われた。 ・校長より、特に卒業後の動向・活動についての情報を把握していない。今後は、卒業生のキャリアアップを中心に積極的に関わりたいとの考えを示し、国家資格を目指す卒業生に対し受験指導等を実施しているが、今後も精神保健福祉士の資格取得に向けた受験指導について具体的積極的な施策を検討中であることが明らかにされた。 ・後援会会長の北岡光明氏より、そもそも卒業生を評価することが必要なのかと

	<p>の疑義が呈され、それは厳しいのではないかとの意見が出された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長より、これらの項目は文部科学省のガイドラインに沿って評価を行っていることと返答がなされた。 ・議長(委員長)、校長より卒業後の動向についてシステムチックな情報管理体制等は構築されておらず、その都度(卒後來校した時等)対応している状況であることが明かにされた。 ・ここで本校卒業生の動向に関わり福祉法人修央会の平尾悟氏より、卒業後の動向に関わり当該施設に就職した本学出身者が、母校を訪問しているとの言動についてすばらしいことであるとの認識が示された。また、退学率についてどの程度なのか質問がなされた。 ・校長より、十数%であるとの返答がなされ、またその改善が課題でもあるとの認識が示された。 ・また、議長(委員長)より、学科ごとの就職率の差はあるのか質問がなされた。 ・これに対し、奥山より、学科ごとに差は生じているとし学生部長からも最終的には各科ほぼ就職は決定するが、その途上において指導上の差異や学生の意識などにより差が生じているとの認識を示した。
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・議長(委員長)より、「(5) 学生支援」について審議(評価)が行われ、「学生支援」についての具体的な補足が求められた。 ・校長より、「学生支援」について、具体的に「進路・就職に関する支援体制」や「課外活動に関する支援体制」について、吹奏楽部(学校を代表する部)等を例に説明がなされた。 ・さらに、議長(委員長)より、GL(学生リーダー)についての説明も求められた。 ・これに対し校長より、校内にある様々な学生組織の中でもGL(学生リーダー)は特に種々の学校行事をサポートする役割を担っており、またそれらの活動を通しての学生の育成という面があるとの説明がなされた。 ・議長(委員長)より、近時の経済格差に対する学生への修学支援についての説明が求められた。 ・これに対し校長より、公的な奨学金制度はもとより後援会より援助して頂いている本学独自の育英会奨学金制度等、さらには民間の修学資金制度などにより少なくとも修学途上に経済的な困窮で退学に至る学生をできるだけなくすように努力しているとの返答がなされた。 ・次に、議長(委員長)より国からの委託訓練生受け入れについて質問がなされた。 ・校長より、離職者等再就職訓練等の受け入れについて説明がなされるとともに、特にこども福祉科の人気について具体的な現状を示し増員を含めた対応を検討するとの発言がなされた。
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・議長(委員長)より、「(6) 教育環境」について審議(評価)が行われた。ここで、近年更新した施設設備等について説明が求められた。 ・校長より、近年更新した施設設備として、補助金や後援会等の援助によりパソコンルーム(F202)、パソコン学習室(G205)等のパソコン、大講義室(F101)のプロジェクター等があり、また新たに医療的ケアの演習室を整備したとの報告がなされた。 ・議長(委員長)より、今後も適宜施設設備の更新を実施して頂きたいとの要請がなされた。

<p>(7) 学生の受入れ募集</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議長(委員長)より、「(7)学生の受け入れ募集」について審議(評価)が行われた。 ・ここで、評価項目「学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか」の評価が「3」であったことについて説明が求められた。 ・校長より、「正確」に伝えられているかということに対して、すべてのことを網羅的に伝えているかどうか疑問が残るとの返答がなされた。但し、募集活動自体は適正になされているとの認識が示された。 ・ここで後援会会長の北岡光明氏より、かつては全国から学生が集まり学生寮などがあったが、現在の通学圏について質問がなされた。 ・校長より、現在の通学圏は圧倒的に千葉県(近隣)からで、学科の一部(心理・精神保健福祉科)で遠方(沖縄等)からの学生がみられこちらで1人暮らしをしているとの返答がなされた。また、学納金については消費税の導入後も十数年にわたって据え置いているので見直しを実施したい旨発言がなされた。
<p>(8) 財務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議長(委員長)より、「(8)財務」について審議(評価)が行われた。 ・校長より、ここでの「財務」は本校ではなく江戸川学園全体としての「達成状況」を明記している。本校には経理部門がないため、課題にも明記したが適時予算管理はできないため、決算後になってはじめて予算執行の結果が分かることになるとの認識が示された。
<p>(9) 法令等の遵守</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議長(委員長)より、「(9)法令等の遵守」について審議(評価)が行われた。 ・校長より、次年度は特に自己評価に関し適切な実施・公開を評価「4」とすることが表明された。
<p>(10) 社会貢献・地域貢献</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議長(委員長)より、「(10)社会貢献・地域貢献」について審議(評価)が行われた。 ・校長より、評価項目「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」等について補足説明がなされた。事例として近隣高校との授業連携・体験授業や小中学校に出向き体験授業を行う介護キャラバン隊等の展開について説明がなされた。 ・社会福祉法人修央会の平尾悟氏より、具体的にどのようなボランティアを展開しているのか質問がなされた。 ・校長より、施設・諸団体でのボランティア(施設・諸団体からボランティア募集有)をはじめ定例的に日本赤十字関連のボランティア等も行っているとの返答がなされた。 ・駒木自治会長渡邊治氏より、ボランティアについては地域の祭りのおみこし担ぎ手としても活躍して頂いている旨発言がなされた。 ・議長(委員長)より、小中学校での体験授業等は(公的な)財政支援はあるのか質問がなされた。 ・校長より、高校での(家庭科)連携授業は本校の自主企画なので本校が費用負担するが、小中学校における介護キャラバン隊は、県の福祉人材確保事業の一環でもあり経費(実費)の助成はなされているとの返答がなされた。 ・議長(委員長)より、ボランティアに対し何か要望等があるか確認がなされた。 ・社会福祉法人修央会の平尾悟氏より、ボランティアを依頼する側として施設のイベントにはぜひ必要であるが集まるのか(依頼できるのか)心配である旨の意見がなされた。 ・校長より、ボランティア担当教員を配置してはいるものの組織的に集める(集ま

	る)ところまではいっていないとの認識が示された。
総括	<ul style="list-style-type: none">・議長(委員長)より、すべての項目について審議(評価)は終了したが全体を通して何か意見・質問等があるか確認がなされた。・各委員より、学校運営について大変困難な環境であるが今後も頑張ってほしい等の発言が見られた。